

2013年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	有機化学I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	必修科目(バイオサイエンスコース)／必修科目(食品生物資源コース)／必修科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	松本 幸三						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・結合に関与する価電子について学習し、イオン結合、共有結合等を自由に書けるようにする。 ・アルカン、アルケン、アルキンのIUPAC命名法とその構造を書自由に書けるようにする。 ・アルカンのラジカル反応とその反応機構について理解し、書けるようにする。 ・アルケンの合成法およびアルケンへの求電子付加反応を理解し、反応式を書けるようにする。 ・アルキンの合成法および求電子付加反応を学習し、C-C結合形成反応式を書けるようにする。 						
日程と内容	<p>4/ 9 授業の進め方と概要、成績評価法、有機化学とは何かについて説明。</p> <p>4/23 原子の電子配置を習得し、イオン結合、共有結合、および多重結合を理解する。</p> <p>4/30 原子価について学習し、構造異性を理解する。種々の構造式の書き方を理解する。</p> <p>5/ 7 形式電荷と共鳴について理解し、化学反応における矢印の意味と利用法を習得する。</p> <p>5/14 結合の軌道論的な考え方を学習し、炭素原子の混成軌道について理解する。</p> <p>5/16 化合物の電子配置、結合などのまとめ(演習を含む)。</p> <p>5/21 アルカンのIUPAC命名法について系統的な覚え方を習得する。</p> <p>5/28 アルキル置換基の系統的命名、アルカンの性質、立体配座を理解する。</p> <p>6/ 4 シクロアルカンのIUPAC命名法と立体配座およびcis - trans異性について学習する。</p> <p>6/11 アルカンについてのまとめ(演習を含む)。</p> <p>6/18 アルケン、アルキンの命名法、アルケンの構造と軌道、cis - trans異性を学習する。</p> <p>6/25 アルケンへの求電子付加反応とその反応機構について学習する。</p> <p>7/ 2 アルケンへの付加反応の過程について学習する。</p> <p>7/ 9 アルキンの構造と軌道、付加反応について学習する。</p> <p>7/16 アルケンアルキンについてのまとめ(演習を含む)。</p> <p>7/23 定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	55%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題						
	演習	45%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<p>結合に関与する価電子について学習し、イオン結合、共有結合等を自由に書けるようにする。 達成した。</p> <p>・アルカン、アルケン、アルキンのIUPAC命名法とその構造を書自由に書けるようにする。 達成した。</p> <p>・アルカンのラジカル反応とその反応機構について理解し、書けるようにする。 達成した。</p> <p>・アルケンの合成法およびアルケンへの求電子付加反応を理解し、反応式を書けるようにする。 達成した。</p> <p>・アルキンの合成法および求電子付加反応を学習し、C-C結合形成反応式を書けるようにする。 達成した。</p>						
反省点	学生の理解度をみながら、授業の進度を調節しようとしたところ、うまく進度を調節することができた。今年度は演習の問題量を少し減らしたところ、学生の理解度が上がったと感じた。						
来年度の計画	基本的な部分の説明時間を十分に取つつ、応用的、発展的な部分の解説の時間を増やしたい。演習の問題量は今年度並みしたい。声を大きくはっきり発音するように心がけ、理解できていない学生に直接声掛けをしていきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	授業内容を概ね理解してもらったようでよかった。大きな声で説明をするように心がけます。学生の名前を間違えないように注意します。						
履修登録者数	73名	定期試験受験者数	70名	合格者数	69名	合格率	99%